



ちがさきサポセン

Vol.70

NEWSLETTER

サポセン、ここが便利！【施設編】

「市民が主役のまちづくりの拠点」～年間 346 日、1 日 12 時間オープンで市民活動をするみなさんをサポートします！



食事 OK

お湯が使える

湯沸室あり
急須やカップ常備
※ゴミは持ち帰り
自販機はないので、夏はマイボトルがおすすめ



<フリースペース>

夜 9 時 30 分まで OPEN !

予約なしで使える

Wi-Fi が使える

「Freespot Chigasaki」



パソコンが無料

プリント代有料
モノクロ 1 枚 10 円

※多くの方が利用できるよう、お一人 1 回 2 時間を目安に貸出



<作業コーナー>



パソコンとの接続印刷で
単色でも画像がキレイ

インク：黒・赤・緑・赤・茶
単色 1 製版 440 枚まで
100 円(用紙代別)～

印刷用紙持込可、再生紙、色上質紙の頒布あり
有料：コピー機、紙折り機(2000 枚以上)、
ラミネーター
無料：丁合機、裁断機、貸出文具

<プレイルーム>



子連れ OK

座卓、座布団あり



バリアフリー

多目的トイレ・赤ちゃんのオムツ替シートあり

<チラシ&図書コーナー>



市民活動関連の
チラシが豊富

関連図書も充実

講座、イベント、助成金、ボランティア情報、
NPO やまちづくり関連実用書、
専門雑誌(ソトコト、ガバナンスなど)
居場所づくりオススメ本(P4 紹介)もあります

<レターケース>



郵便物や連絡書類
の取次 OK(無料)

有料ロッカーもあり

レンタル備品が安い

イベント開催に便利な
プロジェクター、スクリーン等は有料
放送設備は無料



詳しい施設案内は
HP をみてね ▶



サポセン利用の際に分からないことがあれば、
窓口スタッフに声をかけてください



新型コロナウイルス感染防止のため、消毒・手洗い等にご協力をお願いしています。
(令和 2 年 3 月 31 日まで臨時閉館、施設の利用にあたっては、事前にホームページ等で最新情報を確認してください)

カフエ

「ルワンダで義足を作り続けて…。最大の危機に直面中」

1996 年ルワンダに障害者支援 NGO を設立。茅ヶ崎出身のルダシングワ真美さんは、夫のガテラさんとともに、ルワンダに住む障害者に対し、義肢装具や杖、車椅子の無償提供や障害者スポーツの普及等を行っています。しかし 2 月、活動拠点が強制撤去され最大の危機に。今までの活動報告をお聞きし、そして再建に向け私たちにできることを考えたいと思います。

◆日 時：5 月 15 日(金) 19:00～21:00

◆ゲスト：ルダシングワ真美さん

◆場 所：ちがさきサポセン

(ムリンディ/ジャパン・ワンラブ・プロジェクト)

◆定 員：30 名(申込制、先着順) ◆参加費：300 円(飲み物付) ※当日、物販コーナーもあります！

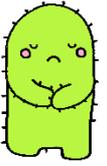
お問合せ・申込みは、サポセンまで TEL/FAX 0467-88-7546、E-mail:s-center@pluto.plala.or.jp

もっと知りたい！サポセンのこと

『市民活動応援プログラム』 2020年1月～2月

【開催中止】こどたん 2020(こどもたいけん☆ワイワイまつり) 実施に向けた道のり

新型コロナウイルス感染症の影響を鑑み、ご来場される方々の健康と安全に配慮し中止させていただきました。開催に向け関わってくださった多くの皆さま、ありがとうございました。



★団体・うみかぜテラス・サポセンとの話し合い★

(開催直前までメールや電話、現地打合せを50回以上実施)借用する部屋の確認や団体の企画が実施可能か検討する際は、担当職員の方がいつも好意的に受け止めて、丁寧に対応してくださいました。ありがとうございました。

★チラシデザイン★

うみかぜテラスで初開催ということで会場の雰囲気や茅ヶ崎の気持ちいい春を表現することに力を入れました。見た人が思わず小走りで“こどたん”に遊びに行きたくなるチラシになっていた嬉しです。来年にリベンジ！(谷野 真結花 文教大3年)

★コラボ企画の誕生★

場所プログラム作戦会議では、団体同士、子どもの好奇心を引き出し、発想力をいかすために、活動分野を超えて情報交換に盛り上がりました。また呼び込みイベントとしてフラの3団体がオーリーブ広場で踊ろうか…などまつりを盛り上げるアイデアがでました。

6月

開催場所の検討

「うみかぜテラス」決定！

- ・企画検討、募集要項作成
- ・市、教育委員会への後援名義使用申請

11月

キックオフ交流会

- ・まつりの概要説明、団体交流

11/15…17 団体 22 名、手話通訳者 2 名参加

11/16…13 団体 17 名参加

- ・団体、事業者、うみかぜテラスとの調整
- ・野球場利用のソフトボール大会関係者との調整
- ・臨時駐輪スペース確保→恵泉幼稚園の協力

▲参加申込受付▼

12月

12/15 参加申込締切

39 団体参加 (新規 5 団体)

「ものづくり」「遊び」にチャレンジする企画がたくさん！

- ・企画内容、使用備品の確認
- ・部屋割り調整

★環境・エコに配慮★

- ・ゴミの持ち帰り、エコバッグ、マイ箸、カップ持参の呼びかけ

2020年
1月

1/25 場所プログラム作戦会議

- ・参加団体顔合わせ、話し合いで会場レイアウト決定 (31 団体 35 名、手話通訳者 2 名参加)



2月

2/10 企画内容確認書 提出受付

- ・会場マップ作成

2/21 こどたん 2020 中止決定→関係各所へ中止連絡

「こどたん 2021」につづく

★ボランティアの協力★

- ・高校生ボランティア活動 (4 回、のべ 20 名参加)
- ・スタンプラリー景品準備、小学校配布チラシ仕分け等
- ・文教大学 karon との打合せ

★広報★

- ・サポセンニューズレター、ホームページなど

チラシデザイン作成



- ・小学校全校配布の依頼
- ・自治会回覧の依頼、周辺自治会長への挨拶
- ・市内広報掲示板
- ・地域メディアへの掲載依頼 (タウンニュース、神奈川新聞 子どもとお出かけ情報サイト「いこーよ」、イベントバンク)
- ・市 広報 (広報ちがさき、HP、デジタルサイネージ)
- ・のぼりデザイン

【参加団体】 NPO 法人赤ちゃんからのアートフレンドシップ協会、認定 NPO 法人 NPO サポートちがさき、MOA 茅ヶ崎健康生活ネットワーク、親子プログラミング教室茅ヶ崎、キッズコーチ有志、KEEP LEFT PROJECT、KATE'S BEACH CLUB、健康づくりコスモスの会、建築デザインクラブ、サンチャイ・ネパールねばらば、じゃおクラブ湘南、精進料理研究所はな、認定 NPO 法人湘南ふじさわシニアネット、湘南 1Leben、茅ヶ崎ヴォイス、茅ヶ崎市視覚障害者福祉協会、NPO 法人ちがさき自然エネルギーネットワーク/ソーラーハウスにしかわ、茅ヶ崎市聴覚障害者協会、ちがさき竹とんぼ教室、茅ヶ崎ラグビースクール、NPO 法人地球の木、つなぎの会茅ヶ崎、DIY アドバイザー神奈川、フイケ アオ アロハ ハウオリ、フラハウオリ、ぶるぶる忍者、Homehome Home、防災スイッチオン！プロジェクト、MAKERSPACE 茅ヶ崎、和太鼓 湊

【参加事業者】 GARA 中海岸、KATE'S CAFÉ、出張町工場、しんちゃんのごはんやさん、(株)なんどき牧場、MYKONOS Kitchen、Loco kitchen、(株)由紀精密

【協力】 文教大学 Karon、(株)K・B・S システム、恵泉幼稚園、茅ヶ崎高校ボランティア同好会、茅ヶ崎西浜高校 JRC 部、茅ヶ崎市教育推進部青少年課、茅ヶ崎市建設部公園緑地課、茅ヶ崎市総務部市民自治推進課、個人ボランティア (50 音順)

地域の居場所づくり交流会IV@ちがさき

- 日時：1/18(土)14:00~17:15
- 場所：ちがさきサポセン
- 参加者：40名
- 講師：西川 正さん

((特非)ハンズオン埼玉常務理事)

●事例発表者：

- 森下 晋さん、神谷 マミさん(みんなの居場所)、
- 竹内 あき子さん((特非)ワーコレたんぼぼひろば)、
- 山本 雅子さん(南湖みんなでやんべえよ会・和輪話/若林酒店)



今回の「地域の居場所づくり交流会IV」は、市内で居場所を運営している3団体の事例発表、西川正さん((特非)ハンズオン埼玉常務理事)の講演、グループワークを通じた参加者交流、の3つのプログラムで構成しました。

当日は、みぞれ交じりの雨という悪天候の中、参加者の皆さんからは、居場所運営をめぐる意見が活発に交換され、閉会時には会場全体が温かい空気に包みこまれるハートフルな場となりました。

(自治体職員、福祉相談室支援員、福祉関係者、居場所づくり実践者などたくさんの方々に参加いただきました)

第1部 (事例発表)

▶森下 晋さん・神谷 マミさん(みんなの居場所)

鶴が台名店街にもう一度人を呼び戻したいと発足された「鶴が台みんなの居場所」。カフェグランマ*をお借りして月に1度食堂を開き、月替わりのカレーをみんなで食べます。特徴は食べにくる人もお手伝いを買って出してくれる参加型であること。食べにくるだけでなく、ボランティアとしても主体的に参加し、盛り上げます。

そして、ここで出会った4人のママが、子育て中の孤立を減らそうと「GENKI プロジェクト」を立ち上げました。



△神谷さん

半年に1度の子ども用品のリユース会や、多世代が交流できるフェスティバルなど様々なイベントを開くなど、地域の活性化にも一翼を担っています。

森下さんは「これからも人と人を結びつけ、子どもが一年一年成長するのと同じように、『みんなの居場所』も未来に向けて成長し、地域のニーズを感じとりながら変化していきます。」と締めくくりました。



△森下さん

*カフェグランマ：社会福祉法人 翔の会が運営する障害者の方が働く喫茶店。名物メニューはカレー。

▶竹内 あき子さん((特非)ワーコレたんぼぼひろば)

香川にある昔ながらの古い軒家を借りて、毎週月曜・木曜開催のフリースペースのほか、小学生のための居場所「ぼぼ」や、学校を休みがちな子どもをもつ親などのためのカフェ「たんぼぼカフェ」を開催(それぞれ月1回)。また、平日昼間には、理由を問わず未就学児のあずかりをしています。さらに、地域で働く方を招いて、子どもたちにお仕事の話をしてもらう「お仕事紹介の



△竹内さん

コーナー」や、ママたちに嬉しいエステ体験、ワークショップなど、イベントが盛りだくさん。

「たんぼぼハウス」を通して、若い世代のボランティアにも参加してもらうなど、異世代交流も始まりました。

竹内さんは最後に「これからは新たな取り組みとして、高齢者に来ていただきやすい場づくりを目指してきます。」との発言がありました。

▶山本 雅子さん

(南湖みんなでやんべえよ会・和輪話(若林酒店))

南湖は高齢者の多い地域。酒屋のお店の空いているスペースに、イスとテーブルを置いたらみんなが集まってきた！これが「和輪話」の始まりです。来る人たちが、自宅に眠っている着物や浴衣など、どうしたらいいかと相談しあったところから、「では自分たちで服にリメイクして、生かしましょう！」と、みんなが自由に参加できる場ができました。

会の名前「和輪話」は、着物・浴衣を着る機会を増やしながら、日本の文化をひろめ(和)、捨てないで生かす環境にやさしい暮らし(輪)を目指し、みんなでおしゃべりしながら楽しむ町づくり(話)から、命名されました。現在はワンピースやブラウスはもちろん、「合財袋(ガッサイブクロ・仮称)」として、お財布も手帳もカードもケータイも一切合財が入る袋をつくろうと思案中。ユニークでかわいらしい袋が出来上がるのが楽しみです。



△山本さん

山本さんは「これからももっともっと、お年寄りが活躍できる居場所、地域を盛り上げる居場所を目指します。」とのことでした。

講演

▶講師：西川 正さん((特非) ハンズオン埼玉常務理事)

「人がつながり動き出すのは、どんな時？ どんな場所？」をテーマに、「遊ぶ」と「学ぶ」の「場づくり」の方法を長年探求し続けている西川正さん。「理髪店と、まとまった話が最大の苦手」との話から始まった講演ですが、参加者の心は、あっという間に西川さんの遊び心と興味深い体験談の渦の中に引き込まれていきました。

育児などのサービス産業化・制度化が進み、人のつながりが生まれにくい、いわゆる「お客様時代」という現代をご機嫌に生きる心のありようとして、「遊び（ひま、隙間、間柄）」を持つことが大切と語る西川さん。

「遊び」は結果がどうなるかわからないからドキドキするし、面白い。そして、結果がわからないから面白いのは、「市民活動」も「まちづくり」も同じ、とのことでした。

「現代社会は、家族だけで子育てする『子育ての孤立化』という人類史上初の異常な状態になっている。そうした状態を脱するには、暮らし方・ライフスタイルを変える必要がある」とし、その実践例として、(1)路上・公園・広場のイベント（屋外こたつ、ペーゴマ回し、巨大オセロ、巨大将棋、書道、七輪、ダンボールあそび、焼き芋、たき火）、(2)地域の普通の大人と子どもが出会う場づくり（大人と中学生のトークフォークダンス「大人としゃべり場」など）、興味深い試みを多数紹介してくれました。

西川さんのお話が進むにつれ、会場がとても温かい空気に包まれ、あっという間に終りの時間がきてしまいました。市内で居場所を運営している実践者同士の出会いから、新しい居場所が地域に増える予感がした講演でした。



△西川さん

第2部（グループワーク）

▶2つのテーマで、ワールドカフェ風グループワーク

- ①「事例発表・講義を聴いて感じた、居場所づくりのコツ、大切なポイントとは？」
- ②「今後取り組みたいことは何ですか？また、居場所づくりに向けて明日から何をしますか？」



グループワーク後の全体会では、「今あるものを変えていくことも大切だが、新しいものを作りあげていきたい！」「最後はアナログ！人と人とのつながりが大事ですね」「茅ヶ崎を世界一の街にする！」など、活気のあるユニークな内容がたくさん集まりました。

次年度の企画づくりに向けて協力したいとの声も複数あがり、今後は、居場所づくりに関する情報交換をしながら次回の企画を共に考えるネットワークづくりを進めていきたいと思います。

=参加者アンケートより=

- ・「居場所」は場所の提供だけでなく出会いやつながりをどうデザインするかが大切だなと思いました。
- ・活動する人たちと参加する人たちと分けてはいけないと思いました。家から出なくなっている高齢者、青少年がドキドキハラハラしながらの運営側に加われて元気になるようにと願っています。
- ・様々な属性、所属の方がいて、自己紹介だけでも面白かった。もっと時間があればさらに話を深められて良かった。
- ・活動を始める前、立ち上げ、当初の困りごとと、それをどのように解決して今に至っているかというような話を聞いてみたい。（フェーズごとの困難を類型化して対策かアイデア集みたいなのができたらすてきですね。）
- ・居場所の可視化、つなぐ人が必要。 ・オフ会？居場所づくり交流会（飲み会）もやりたい。

★居場所づくりオススメ図書★

- 『あそびの生まれる場所～「お客様」時代の公共マネジメント』西川正著、ころから
- 『住み開き一家から始めるコミュニティ』アサダワタル著、筑摩書房
- 『まちの居場所、施設ではなく。』田中康裕著、水曜社
- 『まちの居場所 一ささえる/まもる/そだてる/つなぐ』日本建築学会（編集）、鹿島出版
- 『「つくる生活」がおもしろい—小さなことから始める地域おこし、まちづくり』牧野篤著、さくら舎
- 『多縁社会—自分で選んだ縁で生きていく』篠原聡子・空間研究所・アサツーディ・ケイ著、東洋経済新報社
- 『マイクロ・ライブラリー人とまちをつなぐ小さな図書館』磯井純充他著、学芸出版社
- 『場づくりの教科書』長田英史著、芸術新聞社
- 『つながるカフェコミュニティの〈場〉をつくる方法』山納洋著、学芸出版社
- 『コミュニティ・カフェをつくろう！』WAC(編集)、学陽書房
- 『クリエイティブ・コミュニティ・デザイン—関わり、つくり、巻き込もう』紫牟田伸子編著、フィルムアート社

～NPO 講座～ “なんとなく”はもうやめる 確実に一歩踏み出す情報発信のコツ(連続講座)



日時：第1回 1/29(水)18:30~20:30
第2回 2/12(水)18:30~20:30
場所：ちがさきサポセン
参加者：52名(27名、25名)
講師：市川 ヤスヒロさん
(株式会社バンド代表取締役
/デザイナー)

団体内での情報共有が大事！

1回目では、情報発信の手段に関する知識や現状を学びました。今までの“なんとなく”発信を見直し、「誰に何を伝えたいのか」「なぜ伝えたいのか」を分析し、

団体の目的・目標を設定しました。どんな手法で発信することがより効果的かミニワークを行い、それをプランシートにまとめる宿題もでした。

2回目は、分析と改善。発信した情報がどのような効果があったかを振り返ることの重要性について、事例を交えながら説明いただき、活動を継続させるには、団体内での情報共有が大切なポイントになることを学びました。

参加者からは、「少し展望が開けた。内容と広報ツールの双方が大事」「スマホアプリの紹介が役に立った」「説明は難しかったが、情報は参考になった」などの感想をいただきました。



茅ヶ崎で活躍中の市民活動団体を追っかけレポート！

さぽちゃんが行く！

団体の詳細はコチラ▶



茅ヶ崎市手話通訳者連絡会

2001年5月設立。手話通訳を行うにあたり、有資格者として技術の向上、情報交換、聴覚障害者福祉の向上の一助となるよう活動しています。

《代表の加藤さんにお話を伺いました》

手話で伝えることの難しさ

登録メンバー女性16名、男性3名。手話の歴史を勉強し、技術も身に着けた資格を持った専門家の集団です。

最近では、テレビで手話通訳を目にする機会も増えてきましたが、まだまだボランティア的な要素が大きいお仕事です。病院の先生の話、学校の懇談会、講演会、スポーツ大会などの派遣依頼が来たら現場に行き、通訳活動を行います。メンバー各々活動時間に制約がありますが、できる範囲でやっています。

日々、進化する言葉(単語)の情報を入手するため、手話ニュースを見て、新しい時代にあった手話を学んでいます。小さいお子さんからお年寄りまで、伝わる言語を表現しなくてははいけません。文章が苦手な方、文字が苦手な方、様々なので、伝統的手話、いわゆる昔で言う身振り手振りの手話も併せて、伝わる方法で伝える工夫をしています。

これまで聴覚障害者が、医者や弁護士、バスの運転手、車の免許を取る権利を勝ち取り、それには手話通訳者も共に歩んできましたが、あまり目立たない存在です。でも、日本語を聞いて手話に変換し、正確な情報を伝えるという責任の重い活動です。

手話を知ってほしい

活動をしていて大変なことは、人手が足りないこと。資格を取っても、通訳活動に自信がない、派遣先までの交通手段がない等の事情で登録してない方もいるので

もったいない。もう一度、共に技術を磨き、ぜひ一緒にやって欲しいと思っています。

手話サークルなどの交流の場は、手話に触れたり、聞こえないことの苦労話、歴史などを聞き、通訳が必要！目指そう！と思う方が出てきてくれるキッカケにもなるので、大切な場です。

知り合いが増えることは人生が豊かになる

「生きていく上で知り合いが増えることは世界が広がります。手話通訳を通して聞こえない方、見えない方たちとも知り合いになれ、また自分自身、手話通訳という技術を持っていることで社会貢献ができていていることにやりがいを感じています。色々な人がいて一つの地球。得意なところを活かし認め合えればいい社会になると思います。

災害時には、聞こえない人も情報さえあれば社会貢献できるんですよ。健常者、障害者が参加してこそ意義があるので、今後は、地域の防災訓練への積極的な参加も検討しています。」と、語ってくださいました。

いつ起こるか分からない災害。簡単な単語(できる、逃げて、早くなど)を誰もが手話ができたら、聞こえない人に安心を、そして聴覚障害者で元気な方の力も借りて、共に助け合える場ができます。

簡単な手話を覚え、すべての人と心を通わせ、コミュニケーションの幅も広げてみようと思いました。



I Love You

持続可能なエネルギーを
ちがさき REN がサポセンに蓄電池を設置！

NPO 法人ちがさき自然エネルギーネットワーク(ちがさき REN)が 2009 年 7 月にサポートセンターに「市民立太陽光発電所れんこちゃん 1 号」を設置して 10 年。自家消費分は、2 号・3 号の設置費用の一部に活用し、3 号の売電分と 3 号設置以降の自家消費分については、同法人が積立ててきました。今回、積立金と経済産業省の「災害時に活用可能な家庭用蓄電システム導入促進事業費補助金」を活用し、サポセンに蓄電池が設置されました。太陽光発電と蓄電池を併用することで売電よりも自家消費に利用できる分が多くなります。昼間に太陽光発電で蓄電した電気を夜間に使用することはもちろん、災害時に電力供給がストップした時に安定した電力を確保できるようにしました。今後もさらに省エネに努めていきます。



<お詫び・訂正>1 月発行の Vol.69 の記載内容が一部間違っておりました。お詫びして訂正いたします。

<ちがさき REN 代表理事 上野さんよりひと言>

多くの方から寄付を頂き設置した市民立太陽光発電所。産み出される価値が循環する仕組みを目指してきました。今回、蓄電池を設置することができたのも、関係各位の理解があつてのことです。感謝申し上げます。



広報ちがさき(毎月 15 日号)
「市民の活動だより」掲載団体紹介

- ▶4/15 号：認定特定非営利活動法人 Ocean's Love
- ▶5/15 号：茅ヶ崎ラフターヨガクラブ

気持ちがあたたまる Hot スペース



窓口カウンターには、サンチャイ・ネパールねばるぱのドリップコーヒーの販売(@150 円)や動物・昆虫・季節を形にした折り紙コーナーがあります。(折り紙は、お気に入り作品があれば自由にお持ち帰り OK) 寄付物品をご提供していることもあり掘出し物に出会えるかも。ホッとできるミニスペースに足を留めてご覧ください。気持ちがほっこりしますよ♡



IT スタッフ、卒業！お疲れ様でした！



快適にパソコンを使えるよう環境整備に従事していた文教大学生の雨宮玄汰さんが新しい道へ進みます。

1 年生の冬に先輩の紹介でこの職場に出会い、すぐにワイワイまじりのステージ進行を任せられ、緊張したことをよく覚えています。まつりに関わったことでサポセンの役割を理解することができ、任せられた仕事もやる気が強くなりました。後輩に業務を引き継いだ最後の 1 年間はとてもやりがいがあり充実していました。お世話になった皆さん、ありがとうございました。

4 月から
放送日変更！



FM83.1 レディオ湘南
茅ヶ崎市広報番組「はまかぜちがさき」

毎月第 4 木曜日 8:15~8:20、市民活動のイベントなどが紹介されます。※4 月から放送日が、毎月第 4 月曜 13:30~13:35 へ変更されます。ぜひご視聴ください。

サポセンカレンダー

※臨時休館※
3/2(月)~3/31(火)
<新型コロナウイルスの影響で中止になったイベント>
・2/28 子ども支援交流会
・3/8 防災カフェ
・3/29 こどたん 2020

4 月

月	火	水	木	金	土	日
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30			

○休館日：4/15
□館内利用制限日：フリースペース(大)

5 月

月	火	水	木	金	土	日
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

○休館日：5/20
□館内利用制限日：フリースペース(大)
・5/15(金)市民活動交流カフェ(夜間)

※主催イベント開催のため上記以外でもフリースペースのご利用を制限させて頂く場合があります。ご理解ご協力の程お願いいたします。

ちがさき市民活動サポートセンター

- ▶開館時間 9:30~21:30
- ▶休館日 毎月第 3 水曜日、年末年始(12/28~1/3)
- ▶アクセス JR 茅ヶ崎駅北口より徒歩 10 分程度・駐車場 14 台・障がい者用駐車場 1 台・駐輪場あり
- ▶連絡先 〒253-0041 神奈川県茅ヶ崎市茅ヶ崎 3-2-7 TEL/FAX: 0467-88-7546
- ▶指定管理者 認定特定非営利活動法人 NPO サポートちがさき(指定管理期間：2017 年 4 月 1 日~2021 年 3 月 31 日)

ちがさきサポセン 検索 E-mail: s-center@pluto.plala.or.jp

サポセンキャラクター
“さぼちゃん”

